



第9回植物園シンポジウム

見つけよう 植物園の魅力

主催：公益社団法人日本植物園協会

共催：宝塚植物園を未来につなげる会

日時：2013年7月20日（土）13:30～16:00（12:30開場）

場所：ソリオホール（兵庫県宝塚市、ソリオ1-3階）

定員：入場無料 先着300名



プログラム：

挨拶（岩科 司 公益社団法人日本植物園協会副会長）

植物園を楽しむ（岩槻 邦男 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長）

ガーデンの魅力（西川 綾子 水戸市植物公園園長）

温室の魅力（久山 敦 咲くやこの花館館長）

生き物のつながりを見つける

（奥山 雄大 国立科学博物館植物研究部研究員）

植物園は学びの入り口（山住 一郎 宝塚植物園を未来につなげる会代表）

総合討論

司会（邑田 仁 東京大学大学院理学系研究科附属植物園園長）



日本植物園協会は 2013 年 4 月から公益社団法人日本植物園協会として新たなスタートを切りました。その出発は 1947 年 5 月、宝塚植物園において開催された創立大会であり、記念樹として園内に植えられたチャボトウジュロは現在も旧宝塚自然科学図書館の脇にあります。その後 1966 年に社団法人となり、社団法人化より数えて間もなく 50 周年を迎えようとしております。植物園シンポジウムは 2006 年に開催された第 1 回から最近の第 8 回まで「ふるさとの植物を守ろう」という標語のもとに植物の保全をテーマとして各地で開催してまいりましたが、今回は「日本植物園協会 50 周年に向けて」を標語に、植物園の姿をもう一度見直し、50 周年に向けて植物園と社会のつながりをよりいっそう親密なものにするきっかけとなることを目指しています。宝塚植物園を楽しまれた方も、その機会がなかった方も、このシンポジウムにご参加いただき、身近に植物園のある暮らしに価値を見出していただければと考えています。ご来場をお待ち申し上げます。



日本植物園協会創立記念樹（宝塚ガーデンフィールズ内）

自己紹介

岩槻 邦男 京都大学、東京大学、立教大学、放送大学などで研究教育に務め、日本植物学会、日本植物分類学会、日本植物園協会、国際植物園連合の会長などを歴任、現在日本植物園協会名誉会員、東京大学名誉教授。著書に「日本の植物園」（東京大学出版会）、「新・植物とつき合う本」（研成社）など。

西川 綾子 NHK「趣味の園芸」の講師をつとめ、日頃の園芸を中心にした地域活動や、放送にかかわる活動が認められ、2009年第14回NHK関東甲信越地域放送文化賞を受賞。現在、市民と共に植物公園の運営と英国庭園の再生プロジェクトを推進中。主な著書NHK出版「よくわかる栽培 12ヶ月サルビア」、「園芸入門」など多数。

久山 敦 英国王立園芸協会日本支部理事、フラワーソサイエティー理事、1972～1973年英国王立キュー植物園へ留学、1982～1993年淡路ファームパークの設計、管理を行う。野生植物をたずねて 51ヶ国を旅する。著書に「ヒマラヤの青いケシ」、「スイレンと熱帯の花」、「花のほほえみ」、「六甲高山植物園」、共著として「ヨーロッパ花の旅」など多数。

奥山 雄大 国立科学博物館筑波実験植物園に勤務。チャルメルソウの仲間を中心に、いかにして多様な花が昆虫との共生関係を築き上げてきたか生物進化の観点から研究している。著書に文一総合出版「共進化の生態学」（共著）や創元社「世界で一番美しい花粉図鑑」（訳本監修）など。

山住一郎 近畿植物同好会会長、日本植物分類学会会員、日本植物学会会員。シダ植物の生殖様式と種分化を調べている。

邑田 仁 東京大学大学院理学系研究科教授。日本植物分類学会会長、日本植物園協会会長などを歴任、現在は日本植物園協会常務理事。日華植物区系の植物相、ミャンマーの植物多様性、テンナンショウ属などの系統分類に取り組む。著書・監修書は、「日本のテンナンショウ」、「新牧野日本植物図鑑」（北隆館）など。



お問い合わせ

公益社団法人日本植物園協会事務局
〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11
電話 03-5685-1431
sympo@syokubutsuen-kyokai.jp

宝塚植物園を未来につなげる会事務局
(摂南大学薬学部附属薬用植物園内)
電話 072-866-3136